

2019年12月17日
気仙沼観光推進機構

**気仙沼観光推進機構 スイス・ツェルマツト視察事業
参加高校生募集要項**

気仙沼観光推進機構では、本市のマーケティングに基づく観光のお手本とするスイス連邦ツェルマツトへの視察を来年3月に行います。

ついては、以下のとおり「未来の気仙沼の目」として市内高校生の視察参加者を募集いたします。

1. 視察の趣旨

スイス連邦ツェルマツトは観光地を経営する仕組みとして注目されるDMO (Destination Management/Marketing Organization) の世界的先進地であり、また「世界一のエコリゾート」を街の経営ビジョンに据える観光都市です。本市は平成28年に当地の視察を行い地域経営の考え方や仕組みについて学びました。その後平成29年には当地の地域経営手法をモデルに「気仙沼版DMO」の指令塔である気仙沼観光推進機構を設立し、気仙沼クルーカードなどの様々な取り組みを行っています。

今回の視察は設立からまもなく4年目を迎える時期に、同地の具体的な取り組みから、将来の気仙沼DMOも展望するとともに、より稼げる観光地を目指して実践的に学ぶことを目的としています。

大変実務的な視察となりますが、この視察に気仙沼の将来を担う高校生のみなさんに参加していただきたいと考えています。

2. 視察の概要

(1) 視察先

- ・スイス連邦ヴァレー州ツェルマツト

(2) 視察内容

- ・ツェルマツト観光局(DMO)のマーケティングに基づく戦略策定や観光資源の磨き上げ、受入れ環境の整備、国内外への情報発信等を視察する。

(3) 視察予定時期・期間

- ・令和2年3月20日(金)～3月28日(土)の9日間で予定

(4) 参加予定者

- ・観光関連事業者、気仙沼観光推進機構構成団体及び市内高校生(2人)の11人以上

3. 高校生募集の概要

(1) 募集人数

- ・ 2名（男女を問わない）※参加にあたり下記の審査があります

(2) 応募資格

- ・ 市内の高等学校（気仙沼、気仙沼向洋、本吉響、東陵）に2020年3月時点で在籍する1学年、2学年の生徒（ただし本市出身者を優先する）
- ・ 視察にあたり「パスポート」及び「渡航同意書」など出入国が可能な書類の用意が可能な方（親権者（保護者）のパスポート等必要な書類を含む。未成年者が欧州へ旅行する際に親権者（保護者）が同行しない場合は必要となります。）。
- ・ 事前・事後に開催する勉強会に参加が可能な方
- ・ 参加終了後、視察の成果について発表・報告すること。

(3) 事前事後の勉強会の実施

- ・ 視察の実施にあたり、視察前、視察後にそれぞれ勉強会を開催します。視察前の勉強会はツェルマットの町の特長や観光の仕組みの概要など、今回の視察の事前知識として必要な事項を学ぶため、視察後の勉強会は視察を受けての成果の発表を行うための勉強会となります。

<視察前勉強会>2020年3月4日（水）19時～ 気仙沼市役所

<視察後勉強会>2020年4月4日（土）14時～ 気仙沼市役所

(4) 参加費用

- ・ 本人の食事代程度（5万～8万円程度を目安としてお考え下さい。**食事代は原則自己負担となります。宿泊に食事は含まれません**）
- ・ 渡航費・国内移動費・現地移動費、宿泊費、コーディネート料、海外旅行保険料は気仙沼観光推進機構が負担します。
 - ※ その他パスポートや渡航同意書の取得費用等旅行にかかる費用が必要となります。

(5) その他

- ・ 高等学校等の教職員は同行しません。

4. 応募の方法

(1) 申込方法

- ・ 以下のページにアクセスのうえ、申込書類をダウンロードし、必要内容を記載の上下記の申込先まで申し込みをお願いします。（気仙沼高校、本吉響高校では高校で取りまとめいただきますので、先生にご確認ください。）

気仙沼観光推進機構ホームページ

<https://kesenuma-kanko.jp/zermatt-recruitment/>

(2) 申込書類

- ・参加申込書
- ・作文 テーマ「2040年の気仙沼と私」400字詰め原稿用紙2枚以内

(3) 応募締切

- ・2019年12月24日(火)(在籍する高校の担当の先生へ提出してください)

(4) 審査の流れ

応募申請 ⇒書類審査(応募者多数の場合に実施)⇒面接審査(12月27日の予定)
⇒採否決定

5. 求める人物像(審査もこの視点から行います)

- ・世界の人々との交流を通じた経験から学ぼうとする意欲がある人
- ・様々なことに好奇心を持ち、未知の領域に対しても探究しようとする姿勢のある人
- ・自分が住む気仙沼のことを自分の言葉で語れる人

6. 高校生を募集する理由

ツェルマットは人口5,700人の小さな村ですが、そこにホテルは120軒、レストランが108軒あり、スキーや登山、ハイキング、自転車、国際会議などを目的に年間200万人が宿泊する大きな観光都市です。人口はたったの5,700人にも関わらず、1日当たりの滞在人数は32,000人で、多くの観光客が1週間以上滞在します。

もともとは資源の無いとても貧しい土地で、ここに住む人は銀行からお金を貸してもらえないほどでした。ところがこの街には世界的に有名なマッターホルンという山があります。ツェルマットの人たちはこのマッターホルンを柱に観光地の整備をすすめます。登山列車を作ったりホテルを作ったり、ガイド事業を行ったり。銀行がお金を貸してくれない土地であったためすべて自分たちのお金を街に投資していくことで観光の街を整備していきます。その結果、現在は世界的にも有名な高級リゾート地として世界中のお金持ちがこの街にやってきます。

この街が地域全体で大事にしているのがマッターホルン。この自然そのものが他の街にない優位性であるとして非常に大切に「世界一のエコリゾート」として観光と自然を共生させています。

気仙沼市はみなさんが40歳近くになる2040年には人口が約42,700人となり、そのうち65歳以上の人の割合が47.5%となると予想されています。人口の減少と超高齢社会が進むなかで、気仙沼市はこのツェルマットをお手本に観光業を水産業とならぶ主要な産業として成長させる取り組みを始めています。

気仙沼市は海と生きるまちです。気仙沼にしかない自然や文化、伝統を大切に、それを活かすことで世界中から観光客が訪れる街にしていきたいと考えています。自然や他者と共生する持続可能な観光の仕組みこそこの気仙沼の観光が目指すべき姿であると考えています。

この取組みを今現在に止めることなく、将来にわたり続けていけるよう、気仙沼の将来を担う高校生みなさんにぜひ知っていただきたいと考えています。

ただし、今回の視察は実際のビジネスの視察がほとんどです。経営や経済の難しい話も出てきます。理解できず眠くなるかもしれません。視察の前と後には何回か研修もあります。

それでも良ければぜひ参加してみてください。

7. 申込先・お問い合わせ

気仙沼市産業部観光課観光係 齋藤

住 所 〒988-8501 気仙沼市八日町1-1-1

電 話 0226-22-6600

メール kanko@kesenuma.miyagi.jp